



スターゼン★レポート

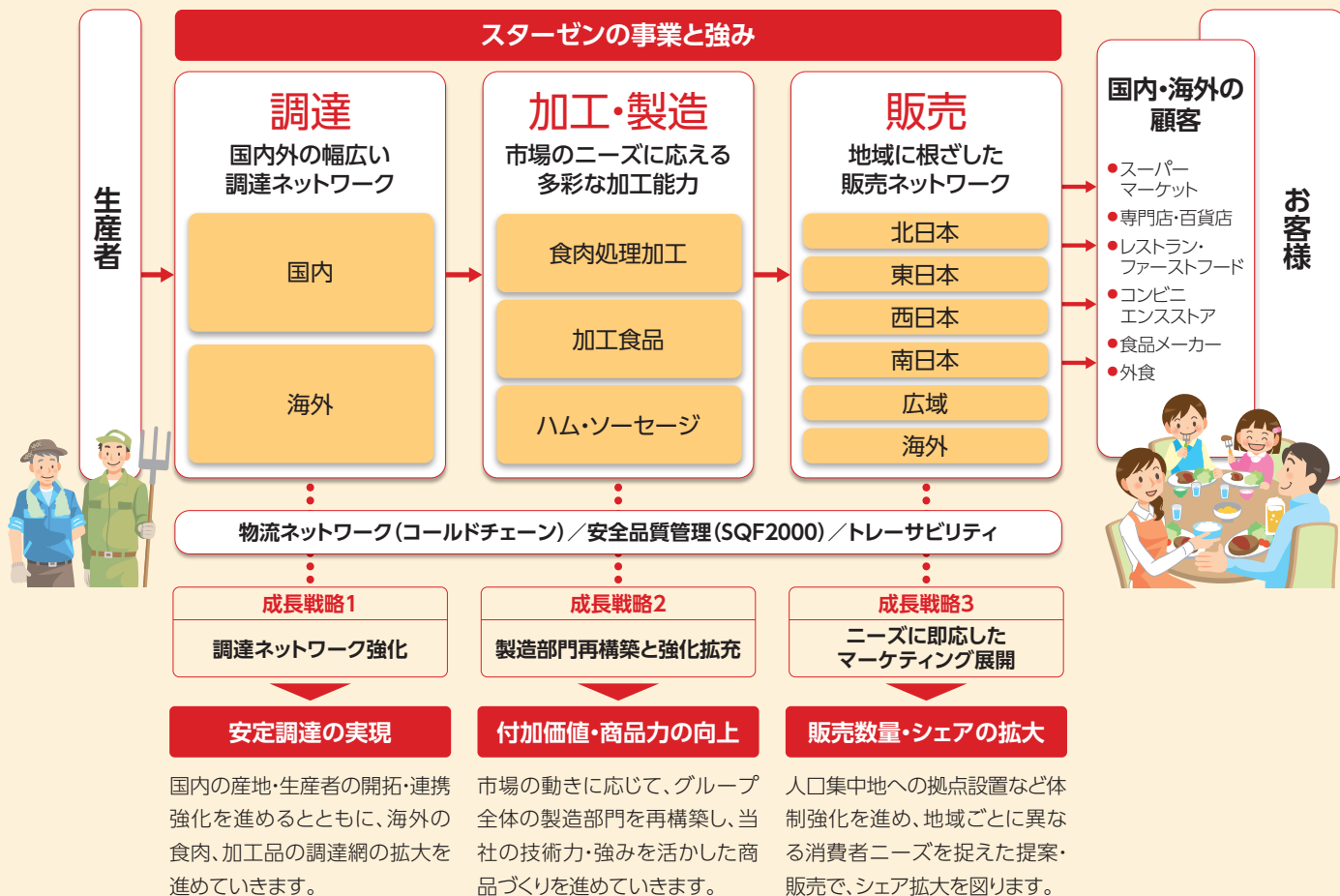
2012年3月期(第73期) 株主通信
2011年4月1日～2012年3月31日

おいしさ運ぶ★一番星
スターゼン株式会社



食のトータルサプライヤーとしての強みを活かし、
機能強化を通じて、シェア拡大に積極的にチャレンジします。

産地との連携による食肉の生産から、国内外のネットワークを通じた調達、加工・製造、
地域に根ざした販売・マーケティングまで。事業機能のさらなる強化と厳格な安全・品質管理で
価値ある商品の提供を通じて、シェア拡大に挑戦しています。



お客様の声に積極的にお応えする バイタリティある企業グループへ



株主の皆様には、日頃より格別のご支援ならびにご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、当社代表取締役社長に就任しました中津濱^{なか つ はま}です。“スターゼン・レポート”をお届けするにあたりご挨拶申し上げます。

当期(2012年3月期)は、昨年度末に発生した東日本大震災の影響による消費マインドの冷え込み、小売・外食における販促活動の自粛、放射性物質汚染問題に加え、食肉相場の混乱や焼肉店での食中毒事件の発生など、食肉業界にとって大変厳しい一年でした。

こうした中、当社グループは、業界に先駆けて安全・安心の取り組みとして放射性物質の検査体制を確立し、国産牛肉の販売を回復基調につなげるとともに、豚肉・鶏肉・加工食品など幅広く拡売に努め、積極的な消費回復策、販売促進策を実行しました。

その結果、取り扱い量は前年並みを確保したものの、販売価格低下により当期の連結業績は、売上高2,593億99百万円(前期比1.3%減)、営業利益26億

77百万円(前期比8.9%減)、経常利益30億52百万円(前期比9.2%減)、当期純利益9億27百万円(前期比44.2%減)となりました。

また、当社はグループ各社の機能強化を目的に、本年6月の総会で株主の皆様のご承認をいただき、ローマイヤ株式会社を8月に完全子会社化いたします。今後グループ企業ごとの機能分担の明確化、効率的な経営資源投入を行い企業価値の最大化を図ってまいります。

引き続き厳しい経営環境が予想される中、「食の安全・安心の確立」を基盤に、お客様の声に積極的に耳を傾け、価値のある商品の提供を通じて、お客様の更なる評価・信頼を勝ち得ていく「バイタリティあるスターゼングループ」を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なか つ はま つよし
代表取締役社長 中津濱 健

厳しい環境をチャンスと捉え、「攻め」と「守り」の両面で
経営基盤の強化に取り組みます。

Q 新社長就任にあたって、
抱負をお聞かせください。

A お客様第一主義のもと、グループ全社が一致団結して
発展を目指す企業グループにしていきたいと考えています。

目まぐるしく変化する昨今の市場環境の中で、存続し、発展していくためには、何よりもまずお客様を第一に考え、ご要望に的確にお応えすることだと思います。そのためには、常に現場を基点とした発想・戦略を掲げ、グ

ループ全社が一致団結して前に進めるよう舵を取ることが社長としての私の使命だと考えています。グループ各社とのコミュニケーションを密にし、「お客様と共に発展していく元気なスターゼン」にしていきたいと思っています。

Q スターゼングループの
強みとは？

A 「食肉サプライチェーンを支えるすべての事業機能を
有している点」と「安全・品質管理体制」が強みです。

当社の強みは、食肉の生産・調達から加工・製造、販売まで、トータルな事業機能を有し、食に関わるあらゆる業種・業態のお客様に、全国のネットワークを通じて商品をお届けできる点にあります。お客様の声、市場の変化にあわせて、事業機能を強化・統合することで、多様な収益機会を生むことができます。

また、食の安全・安心が強く求められている中で、国際規格「SQFシステム」に基づく安全・品質管理を徹底しており、放射性物質汚染問題の際にも業界に先駆け検査体制を確立しました。こうした取り組みが、お客様から高い評価を得ている点も大きな強みです。



**中長期に
成長していく上で
必要な戦略は何ですか？**



**サプライチェーン機能強化によるシェア拡大と
合理化による経営体質の改善が急務だと考えています。**



少子高齢化による食肉市場の縮小、米国産牛肉の月齢緩和、TPPへの参加問題、FTAの拡大等、今後、経営環境は一段と厳しさを増すことが予想されます。

当社グループはこうした環境変化をチャンスととらえ、「攻め」と「守り」の両面で経営基盤の強化を図り、「シェア拡大」と「収益向上」を目指します。

「攻め」の戦略では、大きく3つのポイントがあります。ひとつは「商品群の拡充」です。国内では産地との提携強化やオリジナルブランドの豚肉の開発を進める一方、海外からも食肉・食肉加工品の調達を強化していきます。また「供給・販売部門の新設拡充」を通じて、お

客様のニーズに応える体制を強化し、きめ細かな提案活動を通じて、シェアの拡大を図ります。さらに、国産牛、ブランド豚肉など「食肉の輸出」にも積極的に取り組んでいきます。

一方で「守り」の戦略として、コスト構造の見直しを進めます。具体的には、重複する調達先の一本化、物流の外注化、製造拠点の統廃合、食肉加工場の機械化など、合理化できる余地は多くあると考えています。

こうした取り組みを通じて、環境変化にも耐えられる、より強靱な企業体質を確立し、持続的な成長を目指していきます。



**来期の業績の見通しを
教えてください。**



**厳しい環境が続く中、経営戦略を着実に実行し、
増収増益を目指します。**



来期も、低価格志向等、個人消費の低迷から厳しい経営環境が続くと予測されます。当社グループは、本業である食肉・食肉周辺分野に集中し、安全・安心の取り組みを基盤に、先にご説明した経営戦略を着実に実行することで、増収増益を達成していく考えです。

2013年3月期の業績見通し

	2013年3月期	前年同期比(%)
売上高	2,690億円	3.7%増
営業利益	33億円	23.3%増
経常利益	37億円	21.2%増
当期純利益	13億円	40.2%増

代表取締役社長 中津濱 健のプロフィール

出身 鹿児島県

経歴 1972年スターゼン(当時ゼンチク)入社。2000年から業務執行役員・販売本部長、その後、取締役、常務執行役員、国内営業本部長、スターゼンミートプロセッサー(株)社長、ローマイヤ(株)社長、2011年専務取締役・専務執行役員を経て、2012年4月スターゼン(株)代表取締役社長に就任。

モットー 敬天愛人



「食の安全」に関する取り組み

お客様に信頼される商品供給のために、安全と高い品質を確保する体制を強化し、グループを挙げて「食の安全」に関するさまざまな活動を進めています。

国際規格に基づいた

安全・品質管理

食品の安全・品質マネジメントの
国際規格「SQFシステム」
に基づく管理・運営を推進

SQF (Safe Quality Food) 規格は、食品の安全と品質の管理に最適な規格で、農場から食卓まであらゆる食品分野に適用できる国際的にも認知度の高いシステムです。当社グループでは、全事業部所で「SQFシステム」の第三者機関による認証を取得すべく導入を推進するとともに、すでに認証取得した部所においても“管理ツール”として取り組みの改善を進めています。過去の更新審査では、全ての事業部所で『エクセレント（優秀）』の評価で更新しています。

現在53拠点の施設で SQFの第三者認証を取得

2004年の取り組み開始以来、2012年3月末現在53拠点で認証を取得。今後、施設の改修や新築移転の拠点を含む残り10拠点の導入を進め、3年後までに完了する予定です。



SQF認証機関による審査



SQF認証書

**SQFの取得は第1歩。
継続的な改善で
安全・品質を守ります。**

スターゼン(株)品質管理部
部長 三浦 康弘



安心をお届けする

商品検査

原材料選定から商品のお届けまで
多角的な検査を実施し
商品の安全性を検証しています。

お客様に安全・安心な商品をお届けするため、スターゼングループの各工場および営業所では食品衛生管理システムであるHACCPの手法に基づき、原料の受け入れから商品をお客様にお届けするまでの全ての工程で、常に厳格なチェックを行っています。



検査に特化した 東京食肉安全検査センター

食品検査、工場検査を行う 第三者機関として

高度な設備と技術を備えた関連会社(株)東京食肉安全検査センターは、専門性の高い検査で、商品の安全性・信頼性確保に貢献しています。

放射能検査も実施

東日本大震災に伴う食肉の放射能汚染にも昨年7月からいち早く対応し放射能検査を行っています。



放射能検査

グループ各社に加え、
食品関連のさまざまな会社の
検査も実施しています。

(株)東京食肉安全
検査センター
検査員 成田 静香



生産履歴の 情報公開

食肉の生産履歴を確認できる
「トレーサビリティシステム」を確立

当社グループは、業界に先駆けて、2003年2月に牛肉について、2004年6月には豚肉の生産履歴情報システム「トレーサビリティシステム」を導入しました。当社グループの工場で処理加工された牛肉、豚肉の生産から流過程の情報を、当社ホームページ上で公表し、確かな裏付けのある安全・安心な食肉の供給体制を確立しています。



分かりやすい、 使いやすいシステムを追求

当社がお取り扱いした牛肉であれば10桁の個体識別番号を、豚肉であれば10桁のお問い合わせ番号を入力すると、生産、加工、飼料等に関する情報が簡単に検索することができます。ぜひ、当社ホームページにアクセスしていただき、食肉の履歴をご確認ください。



トレーサビリティシステム画面

生産者の顔が見える仕組みに。
一部携帯電話でも
見ることができますよ。

(株)ジーコス システム室
室長 齊藤 英明



財務ハイライト

売上高

2,593 億円

前期比1.3%減

営業利益

26.7 億円

前期比8.9%減

経常利益

30.5 億円

前期比9.2%減

当期純利益(累計)

9.2 億円

前期比44.2%減

2012年3月期決算のポイント

売上高

放射性物質汚染問題等による国産牛肉の販売低迷等により、2,593億99百万円となりました。

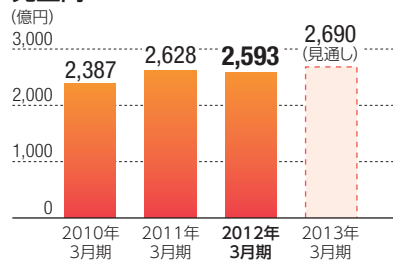
営業利益・経常利益

売上高の減少に伴い売上総利益が減少したことにより、営業利益26億77百万円、経常利益30億52百万円となりました。

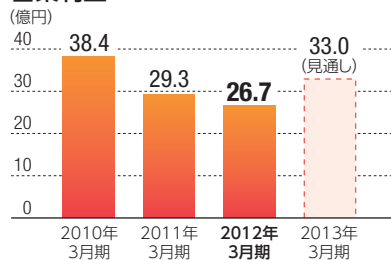
当期純利益

法定実効税率の変更に伴い税金費用が増加したことにより、9億27百万円となりました。

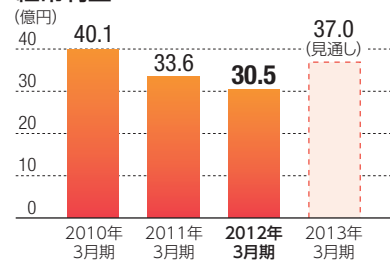
売上高



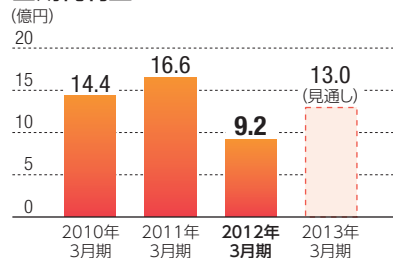
営業利益



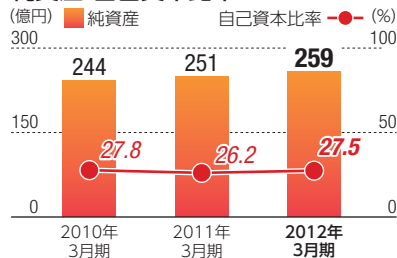
経常利益



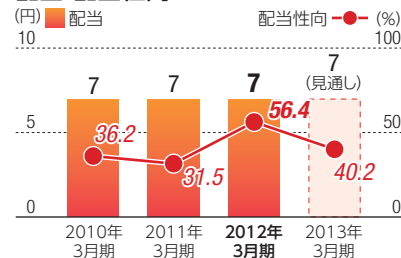
当期純利益



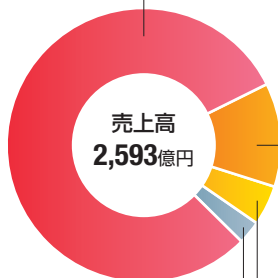
純資産・自己資本比率



配当・配当性向



事業別の営業概況



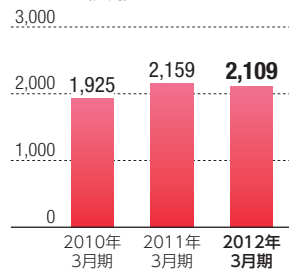
その他
56億円 (2.2%)

食肉

2,109億円 (81.3%)



売上高 (億円)



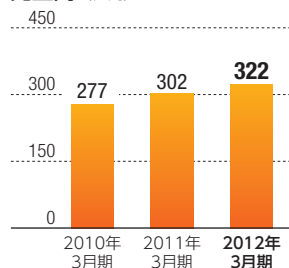
- **国産牛肉**：放射性物質汚染問題により消費大幅減少
- **国産豚肉**：出荷頭数減少により厳しい販売環境も、取り扱い量確保
- **輸入牛肉**：海外相場高、国内相場低迷の中、加工原料用肉を中心に取り扱い量確保
- **輸入豚肉**：加工原料用、一般家庭用積極販売

加工食品

322億円 (12.5%)



売上高 (億円)



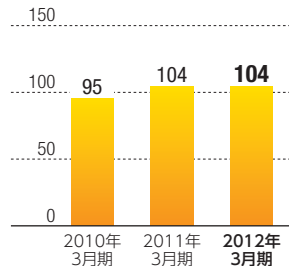
- 加工食品の需要増加により家庭向け調理済み食品の販売が拡大、ハンバーグ等の販売を拡販

ハム・ソーセージ

104億円 (4.0%)



売上高 (億円)



- 牛肉加工品の販売で苦戦したが、ハム・ソーセージを中心に積極販売

新拠点

販売強化と物流の合理化に向け 和歌山と新潟に営業所を新設

スターゼン西日本販売(株)は、西日本エリアにおける和歌山市内に和歌山営業所を新設。また、スターゼン東日本販売(株)は新潟市内に新潟営業所を移転新設しました。新設備のもと、なお一層の業容の拡大に努めています。



和歌山営業所



新潟営業所

海外展開

香港への鹿児島和牛の輸出を開始 現地飲食チェーンが新たな顧客に

香港飲食チェーン「テイスト・オブ・ジャパン」グループ(社長:リッキー・チェン)の料理店「板長寿司」等が「KAGOSIMA WAGYU」の販売指定店となりました。当社グループは、シンガポール、香港の24店舗へ鹿児島和牛を提供しています。



香港への第1便を送る出発式

鹿児島県食肉輸出促進会による
販売指定店証の交付式

マーケティング

「食でつなげる信頼」をテーマに スターゼングループ総合展示会を開催

2012年1月25日、東京流通センター展示会場で、お取引様を招待し「第5回スターゼングループ総合展示会」を開催しました。多種多様な商品ラインナップの紹介を通じて、数多くの販売契約が成立し、大きな成果をあげました。

各社の展示ブースでは
試食を交え商品をアピール銀座レストランローマイヤによる
「ワインに合う肉料理」の講演

売れ筋商品

当社独自の新製法を活かした ローストビーフのご紹介

食卓に並ぶ機会が増えたローストビーフ。当社グループでは、新製法の開発に取り組み、味・色合いともに改良した新商品を発売しました。大手量販店での採用も進み、取り扱い量が増加しているご好評の商品です。ぜひ一度お試しください。



さまざまな料理で活躍します。(写真は調理例です)

会社概要

設 立	1948年6月17日
本 社	〒108-0075 東京都港区港南一丁目6番41号
資本金	98億9,975万円
主な事業内容	1.食肉の加工および販売 2.畜産物の生産、加工および売買 3.食肉および畜産物の輸出入 4.食品の製造、加工および売買
主な販売先	スーパーマーケット、食肉専門店、百貨店、 外食産業、コンビニエンスストア、生協、 食品加工メーカー、食肉卸売業、その他
従業員数	2,234名(2012年3月31日現在)

役員

(2012年6月29日現在) ★★

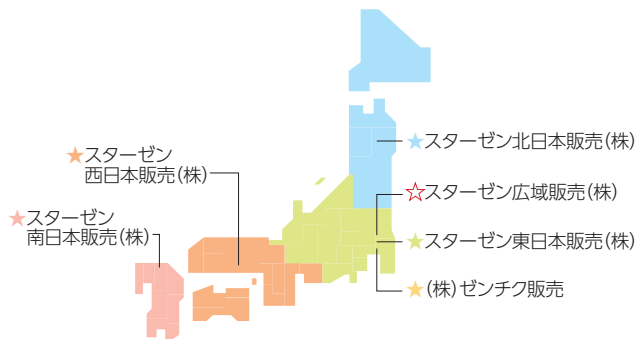
代表取締役会長	鵜 橋 誠 一
代表取締役社長	中津 濱 健
常務取締役	永 野 章
常務取締役	中 井 俊 夫
取締役	宮 坂 文 郎
取締役	寺 師 孝 一
取締役(社外)	鈴 木 宏
取締役(社外)	太 田 泰 介
取締役(社外)	本 橋 英 一
常勤監査役	片 山 学 (新任)
常勤監査役(社外)	北 條 秀 樹 (新任)
監査役(社外)	杉 島 光 一
監査役(社外)	吉 原 大 吉 (新任)

株式の状況

(2012年3月31日現在) ★★

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	87,759,216株
株 主 数	13,017名

組織図



株主優待のご案内

日頃からご支援いただいている株主の皆様に感謝の気持ちを込めまして、株主優待を所有株式数に応じ次の通り進呈いたします。

1 自社グループ製品(3月のみ)

1,000株以上:3,000円相当

10,000株以上:8,000円相当



ハムソーセージセット



国産和牛ステーキ肉

2 1,000株以上:歳暮ギフト(9月)、中元ギフト(3月)を 通常販売価格の20%割引(送料無料)にてご案内

3 1,000株以上:「ローマイヤおせち」の割引販売(数量限定) 20%割引(送料無料、9月のみ)にてご案内

4 1,000株以上:レストランローマイヤ銀座店食事代 20%割引券を進呈

当社ホームページのご案内

当社の各種IR資料をご覧いただけるほか、オリジナルのコンテンツを豊富にそろえています。ぜひ当社ホームページをご活用ください。



<http://www.starzen.co.jp>



トップページ

IR情報ページ

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日	単元株式数	1,000株
剰余金の配当基準日	3月31日	株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年6月下旬		
公告方法	電子公告 (http://www.starzen.co.jp/ir/koukoku) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。		

スターゼン株式会社

〒108-0075 東京都港区港南一丁目6番41号

電話: 03-3471-5521

